

氏 名	爲房 宏輔
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲第 7109 号
学位授与の日付	2024 年 9 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Delayed diagnostic interval and survival outcomes in pediatric leukemia: A single-center, retrospective study (小児白血病における診断期間の遅れと生存アウトカムに関する単施設後方視的研究)
論文審査委員	教授 尾崎敏文 教授 大塚文男 教授 田端雅弘

学位論文内容の要旨

本研究では、小児白血病における症状出現から診断までの期間である **diagnostic interval (DI)** に焦点を当て、小児白血病との予後の関連を調べた。岡山大学病院で 2007 年 1 月から 2022 年 12 月までに新規に診断された小児白血病のデータを後方視的に収集し、解析した。生存解析は Kaplan-Meier 法を、生存期間の比較は log-rank 検定を用いた。解析対象は 103 名の小児で、DI 中央値は 20 日であった。DI 延長 (30 日以上) は、5 年無イベント生存率 (< 30 日: 70.1%、 $\geq$ 30 日: 68.3%、 $P = 0.99$) や全生存率 (< 30 日: 84.7%、 $\geq$ 30 日: 89.4%、 $P = 0.85$) との関連は見られなかった。小児白血病における DI の延長と生存には有意な関連はなく、小児白血病患者においては分子生物学的特徴に基づいた治療層別化により、DI の延長が予後に及ぼす影響は非常に小さい可能性が示された。

論文審査結果の要旨

本研究では、小児白血病における症状出現から診断までの期間である **diagnostic interval (DI)** に焦点を当て、小児白血病との予後の関連を調べた。岡山大学病院で 2007 年 1 月から 2022 年 12 月までに新規に診断された小児白血病のデータを後方視的に収集し、解析した。生存解析は Kaplan-Meier 法を、生存期間の比較は log-rank 検定を用いた。解析対象は 103 名の小児で、DI 中央値は 20 日であった。DI 延長 (30 日以上) は、5 年無イベント生存率 (< 30 日: 70.1%、 $\geq$ 30 日: 68.3%、 $P = 0.99$) や全生存率 (< 30 日: 84.7%、 $\geq$ 30 日: 89.4%、 $P = 0.85$) との関連は見られなかった。小児白血病における DI の延長と生存には有意な関連はなく、小児白血病患者においては分子生物学的特徴に基づいた治療層別化により、DI の延長が予後に及ぼす影響は非常に小さい可能性が示された。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。